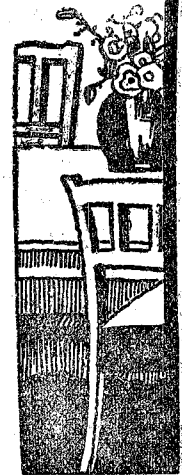


研究



アラスカの歴史産業交通の概況 (上)

H T 生

アラスカの位置と戦略的意義

這般英國首相チャーチルは日本本土爆撃の必要を力説したうちに於いて、……日本本土を爆撃するには政治上軍事上の諸困難を克服せねばならないが、殊に地理上の問題は重要である云々……と述べて居るが、アラスカの有する戦略的價値は今後重大なる問題を提供するものと思はれるのである。即ちアラスカはプリンスウエルズ岬がベーリング海峡を隔て、蘇聯の領土に最も接近し居るのみならず、目

下米國陸軍部隊と激戦を敢行して以て我が勇敢なる精銳が寡兵を以て克く米の大部隊を撃退しつゝあるアツツ島を含む問題のアリニューシヤン列島は日本と蘇聯との圏内にその頭を突出してゐるのであるから、従て米國の東亞に對する一切の行動の重要な據點とされる意義を持つのである。殊に最近に及んで航空機の發達はこのアラスカの戦略的意義を彼我にとつても一層重要化して來たのである。而して地圖を俯瞰すれば一目瞭然の如くアラスカは大部分北極圈

内にあるが、其の位置はベリリング海峽を隔て、シベリアに相對する北阿米利加大陸の西北部に於ける廣大なる國土である、これを日本から觀察するとアリユーシヤン列島を以て我國の千島列島及び蘇聯領カムチャツカに連鎖して居るから東北に位するのである、緯度を以て見れば北緯五十五度から七十一度二十五分に互つて居るためにその一部は北極圏内に足を踏み入れてゐる、東西は西緯百二十九度五十八分から東緯は百七十二度二十二分に達して即ち東西兩半球に跨つてゐる、面積は百五十一萬八千方軒であるから我國に比較すると約二倍に該當し亦合衆國に比較すると約五分の一になるのである、而して海岸線は極めて長く約八千哩以上に達してゐるが、島嶼を加へると約二萬六千哩にも及んで島を除いてもアメリカ合衆國の大西洋沿岸よりも遙かに長く從て海岸線は頗る複雑を極めてゐるのである、人口は五萬九千三百七十八人「千九百三十六年の調査に依る」にして即ち一平方軒當は〇・〇四人の割合を示して居るから可住地域としては世界中に於ける最小の人口密

度である、而してアラスカの人口は季節的に非常なる異動性を持つてゐるのであつて、夏季に於いては漁業を主として林業鑛業等この地の全産業に對する勞働者が大舉渡來するが、これ等の人は米國人の他にノルウエー、スウェーデン、カナダ等から來たり漁業にはフィリッピン、支那人等も加つて居て嘗てこれまで日本人も加つてゐたのである、故に夏のアラスカは恰も太平洋諸民族の展覽會のやうな觀を呈するのであるが、露國人のみはこゝに定着するもの多くして數十年以來原住民とも混血して、コヂャツク、アフオガナク、ケナイ、シトカ、ウンガ等に散在してゐる有様である。

アラスカの原住民とは

アラスカの原住民とは即ちエスキモー、アレウト、アタパスカン、トリンギット、ハイター、ツイムシヤン等を指すのであるが、その内エスキモー人種は最も克く世間に知られてゐる民族であるが、その人口は凡そ一萬四千位あつて、主としてクスキン河デルタが中心居住地となつてゐ

る。この人種の體軀は中型ながら強健にして住居は夏は皮製のテントを用ひ、冬はそれを雪で覆ふか或は雪中に穴を掘て居住し、常に土耳其風呂を用ひてゐる、彼等は可なり
の知性を持つてゐるが、藝術的にも繪畫、彫刻、音樂等を好み、村落生活は必しも共同的ではないが、鑛夫として可なりアラスカ經濟に貢獻して居り、また教養あるものもあつて學校教師たるの能力さへ持つてゐるものもある程である、この民族がアラスカ原住民二萬五千中に於いてアラスカ原住民の重要な構成要素をなしてゐる、次にアレウトは人口約三千位であるが、アリューシヤン列島のウング、及び附近島嶼上と其他はアラスカ半島西北部とコヂヤツク島北東部に住んでゐる、この民族は殆んど全部はロシア語を以て話をなし、米國の教育言語を嫌つて生活等もまたロシアの影響を多大に受けてゐる、アタパスカンは人口約四千五百程であるがこの民族は全く典型的なるアメリカ・インディアンである、而して内陸の河岸に大聚落を以て生活して漁獵に従事してゐる、その性格は勇敢にして歐米人

に對しては終始鬪争するが、時には熟練せる内陸水路の水先案内等をなしてゐる、トリンギットも亦インディアンの一派であるが、その人口は約四千程である、彼等はアラスカの東南からコントローラ灣岸コバ河流域に散居してゐるが土俗文化はアラスカ諸民族のうちで最も異色を持つてゐる、この種族は嘗て一本の巨木を以て大カヌーを製作して戰鬪用に一艘に六七十名の戰士を乗せて遠く千裡をも距てたるカリフォルニア海岸にまで遠征したと云はれる位好戰的と耐波性の強いのは驚く程であつた、現在多くは漁獵に従事して居り、亦歐米人に木材伐採夫或は諸工場の雜役夫鑛夫等に使用されてゐて全く昔は自負心を持ち精悍なる民族であつたが現在では歐米人の搾取の奴隷と轉落して衰れなる状態を續けてゐる。更にハイダー族は約二百年程以前に於いて英領コロンビヤのクインチローム島から移住した人種であるが、現在はアラスカの東南部のプリンス・オブ・ウエルス島の南部に住む五百程の小部族である、男子は漁業に従事して、女子は手製のバスケット、彫刻品など賣つ

てゐる、ツィムシヤンは千八百八十七年エビスコ・パル教、牧師ウイリヤム・ダンカンに引卒されて英領コロンビヤのスキーチ河及びナス河流域から渡來したアシネツツ島の千名程の小部族であるがその生活様式は最も歐米人化して罐詰工場、製材所等に使用されて自ら歐米人風の町を經營してゐるのである、これがアラスカに於ける原住民の種的大略であるがユダヤ式の略奪的産業經營下の犠牲となつて哀れなる状態にあるのは所謂米人等の搾取の結果である。

アラスカの地形

翻つてアラスカの地形を見ると、大體に於いて太平洋沿岸山系と中央高原地帯並にロツキー山系と北極洋斜面地帯とに區別することが出来るのであつて、更に太平洋沿岸山系をバンドル海岸山脈とセントエリアス山脈及びアリユーシヤン山脈並にアラスカ山脈の四つの山脈に分けられるのであるが、バン・ヘレドル山脈は五千呎から六千呎の高山が不規則に連らなつてゐて大體百哩位の幅を以てカナダ國境に接する所謂バン・ヘレドル地方に連互してゐるのである。

尙ほこの山脈の前面にはアレクサンダー諸島が並んで居る、この山脈は大部分花崗石から成つてゐて下部斜面には常緑樹が茂つてゐる森林地帯であるが上部は一萬五千呎位にも達する雪原によつて蔽はれてゐるのである、亦海に向つては三千呎以上の海崖をなして臨んでゐるので海岸には殆んど平地と云ふものはない有様である、従て街や家は海上に杭を打ち立てゝその上に設けられてゐるところも尠くないのである、亦セントエリアス山脈はアラスカの西北に走つてゐるが、その主峰はカナダ領内のロガンを始めセントエリアス・クリロン・フェアウエザー・バンクレーバ・ウラシゲル等何れも一萬五千呎以上の高峰がある、またアラスカ山脈は中央高原地方の南壁を構成するものであつて、多くの高峰があるが、そのうちマツキンレー・フロケルの如きは有名である、殊にマツキンレー山は二萬三百呎の高さを保ち北米第一の高山である、この山の三分の二は年中雪に閉された雲間に聳え立つところからインディアンはデナイ「太陽の家」と呼んでゐる。而してこの山を中心とする國

民公園の創設は曩に議會で決定されて現在二千六百四十平方哩の廣大なる區域に擴張されたのであるが、園内にはヘレンベターと呼ばれる、水河等がある、このアラスカ山脈とチユガチ・クナイ山脈との中間に彼のアリユーシヤン火山脈が介入してゐるのであつて、アラスカ半島を経てアリユーシヤン列島を形ち作つてゐる、而してこの火山脈のうちアラスカ半島の基部にあるカトマイ火山は大正元年に我國の磐梯山式の爆裂をして上の上半分は吹き飛びその破片が遠く九百哩も遠き土地にまで及んだのであるが、アラスカ半島にはこの火山の他にもモルシヨウスキー・パウロウスキー・マルチン・イリアムナ等の名稱の付く火山がある、ロツキー山系は北に進むに従つてその方向を西に轉じて弧状をなしてアラスカを横斷してゐるが、アラスカに入つてからは全く其の雄姿を失つてユーコン河谷地方の沈浪狀丘陵や其の北壁をなして低いエンヂョット山脈となつて餘勢を保つてゐるに過ぎない有様である、この北壁をなすエンヂョット山脈とアラスカ山脈との間に横はる地域が中央高

原地方である、更にアラスカの河川は彼のロツキー山系の延長である波浪狀丘陵の間を流れるユーコン河はその支流と共に北米第五の大河であるが、三十三萬平方哩の土地を潤してその流域は大半年カナダ領内にあるが、カナダの領内では北西の方向に流れてゐるが、アラスカに入ると大體に於いて西の方向に流れてベールリグ海に注いでゐる、この河の形成するデルタや海岸低地は數百哩の廣さに擴がつてゐる、この河の主要なる支流にはタナナとコユクツツの二河があるが、ユーコン河の南にアラスカ山脈の山地に源を發して西流してやはりベールリグ海に注ぐクスコウイン河もある。

アラスカの氣候

今度は氣候に移るが、元來アラスカは大部分北極圏内にあるから一般的概念では寒冷極まる一介の邊土に過ぎずと考へらるゝが、大體アラスカの氣候はアラスカ山脈を以て區劃されて以南と以北とに大別することが出来るのである、而して以南は沿岸の諸島を含めて大體溫和なる氣候で

ある冬期は西風によつて黒潮の暖い空氣が流れて来て同緯度の東海岸よりも遙かに暖かいのである、即ち太平洋に面する地方は溫和で降雨多くその他の地方は寒暑の差が大なるので夏季少量の降雨を見るのみである、また夏はカリフォルニア海流に洗はれるのと高緯度にあるために極めて冷涼である、六千米の高度に達するアラスカ山脈と三千米程のブルツクス山脈とはアラスカを南北地帯に劃して太平洋地域と北極洋地域との中間に最も大陸的氣候のユーコン河流域を生ぜしめるが、ベーリング海はアリユーシャン列島が黒潮の流入を妨げるために水温は低くして以てその沿岸を北極洋地域に亞ぐ寒冷なる地方たらしめてゐる、アリユーシャン列島は北に寒海の冷氣があり南に黒潮上の暖氣がある、るので常にこの列島の上にも相會して霧を生ぜしめて、大氣は常に冷濕で島々には樹木の成育もない有様である。氣温の水點以下に降ることは稀に六、八、九月にもあるが七月にはその例はないやうである。又ベーリング海沿岸地方は太平洋氣候區と極氣候との漸移地帯をなして降雨乃至

降雪は共に少く且つ北にするに連れて増加するが、夏季には比較的降雨多くまた霧も少いのであるが、冬季は強風多くして北方の極地方から南下する烈風は著しく氣温を低めて晴天ではあるが、ツンドラ上の交通の如きも困難である、プリストル灣の航行は四月から十月までに開かれるのである、北極洋沿岸に至つては年中強弱はあるが冬の狀態であつて最暖月も氷點下は勿論十月から翌年の五月までは平均零度下二十度である、風は常に強く海岸の堅氷は夏季六週間だけ風のために破壊せらるゝが夏季は晝間は長く雲と霧とは不斷である、アラスカの内陸中央高原地方はアラスカ山脈のために太平洋の熱氣と濕氣とに遮られるので太平洋沿岸地方に比較して降水量少く夏は遙かに高温であると共に冬は一層寒冷である、高緯度のため夏の太陽は殆んど繼續して照りつけるために高温となるが冬季には極度の寒氣が襲つて来て零下十六度に達してゐる、故に河湖は總て氷凍して交通路の發達しないこの土地では冬は却つて旅行の時期だと云れてゐる、アラスカは凍つた河つゝらの國と

の感を抱くが最とも思はれるのである。併乍ら同緯度のスカンヂナヴィヤ諸國の如き考へ方も當らないのである。

ベーリングのアラスカ發見と露國の對策

以上にて大體アラスカの地形、氣候、原住民等の大要が判明すると思はるゝが、全體このアラスカは元々ロシア人の發見に依つて植民地となつてゐたので、千八百六十七年丁度我國の慶應三年に米國の國土擴張主義に依つて時の國務長官たるセワードが建國以來の南北對立、民主黨對共和黨の國內政爭防止の政策上から國民をして對外關係に何等かの關心を持たしむる政策上よりして朝野の反對論を押し切つてロシアから僅かに七百二十萬弗で買収を強行したのである、而して其意圖はセワードが當時言明せし如く米國が將來に於て太平洋上の覇權を握ることを期しての一種の政策に外ならないのであつた、元々アラスカの發見はベーリングと稱するジュートランドに生れた人がデンマルク海軍に奉職して東印度等を廻つた事もあるが、露國に行つた方が其出世が早いと聞いてロシアに赴き其の頃露國が丁度ス

エーデンとの間に於いてバルト海の制海權問題で戦ひ中に露國側の一快速艦の艦長として力戦し相當の功績を擧げた人物であるが、此ベーリングが彼のペートル大帝の命を受けて前後二回アジアとアメリカ間の北海探検をなし、其の第一回は彼の名を取るベーリング海峡を通り第二回目は千七百二十八年に遂にアラスカに到着したのである、この探検に依つてアジアとアメリカとの關係を明かにしたことはベーリングの名を不朽ならしめたものである、千七百四十一年露國政府はベーリングの報告によつてアラスカに關心を持つやうになり従つて渡來する者が多くなつたのであるが、千七百四十五年には既に毛皮商人が現在激戰中のアツツ島に來住をなし、次いで同八十三年にはコヂャツク島にも來り、更に十九世紀となつてからはゴローニン・エドリンのアラスカ沿岸の調査またクスコウイム・マラコフ、ツアゴスキンの内陸探検等があつたが結極ロシア植民の中核となしたのはグルゴル・シエリコフの創立になる。ロシア・アメリカ會社であつた。然るに其の前後の世界情

勢は千七百十三年のユトレヒト條約とパリ條約に依つて英佛のカナダ争奪戰は英國の勝利となり次いで合衆國の獨立戰爭は英植民地としてのカナダの地位を安定せしめてその開發は一段と發展しつゝあつたのであるが、従つて英國人は佛蘭人等と共に十八世紀の中葉以降は大陸北邊地方を訪ふもの多數に及び、殊に英人クツツの北太平洋探査は西班牙人の南からする探險の結果とロシア人の北からする結果とを結び付けるものとして重大意義があつたが、十九世紀に至つては英米人の毛皮商人達ちが續々としてアラスカ東境及び南岸に往來するもの多きを加へるやうになつたのである、更れば茲に於いて十九世紀の二大帝國主義國たる英國と露國との對立が展開されてロシアのロシア・アメリカ會社に對抗するために英帝國主義の代行者は英國の對佛カナダ植民抗争の中核的存在であつたハドソン灣會社であつた、斯様にしてアラスカは海岸線に沿ふて既得勢力圏を持つ露國と内陸東方からこれを突破して太平洋勢力の擴大を企圖す國との對立は永き期間繼續されて、これにアメリカ

合衆國は南方から容喙せんとする勢であつたのである。

米國のアラスカ買收の経緯

全體露國政府はペートル大帝以來彼のカタリナ女帝の如きにすら本國に接近せるシベリアの民衆がぼつ／＼アラスカに移住して行くのはたださへ人口稀薄なるシベリアの經營に多大な影響あるを恐れたのみならず、アラスカを經濟的對象として考へる時はこの遠隔なる土地を確保するには海軍力は勿論商船及び餘剩人口の必要があるからロシア政府のアラスカ經營は事毎に熱意を缺いでゐたのであつた。

これは獨りカタリナ女帝のみならず、パウロ一世も勿論、アレキサンドル一世も亦アラスカに對しては常に消極的であつた、更れば露國のアラスカ經營の意志は米英勢力の北進するにつれて萎縮するの一途を辿つたのであるが、ナポレオンの歐洲制覇は露國海軍を萎縮せしめ加ふるに千八百五十四年から同五十六年に互つてクリミヤに於ける英國との衝突はロシアの敗戰に終つて、敗退後の露國はアレキサンダ二世の平和主義を國是として親米政策に資するため

アラスカの賣却を考慮するに至つた、當時ハドソンベイ會社は植民地として經營するために種々の設備を整へてロシヤ・アメリカ會社の繼承者たらんとしてゐたが、露國はクリミア戰爭の關係もあつて英國には讓渡せずして米國に讓渡することになつた、而して露國と米國との間にアラスカ讓渡問題は進捗して米國は時の大統領ジョンソンの下に國務長官であつたセワードの意見に基いてアラスカ買収方針が決定せられて千八百六十七年三月十日午前四時即ち我國の慶應三年にアラスカ買収條約が署名せられた、而して同年五月二十八日には米國上院を通過して六月二十八日に至つてアラスカ買収が公示せられて越へて十月十八日にシトカに於いて讓渡に伴ふ國旗掲揚式を舉行された。斯様にしてアラスカを米國が買収した眞意については米國は南北戰爭の際モンロー主義を聲明した後とは云へ他國が干渉を試みる危険性が多分にあつたので米國としては他の強國の援助を求めやうとした形勢があり、この緊迫したる時機に於いて露國の艦隊が米國の領海に出現して警戒の任に當つて

くれた事の報酬として嘗て露國が荷厄介視して居たアラスカを買収してやつたと當時僞善者的なる米人の口吻であつたが、當時アラスカ買収は此上もない愚擧と非難を受けたのに對して買収意見者達ちはアラスカの獲得は北米大陸に於ける米國の領土的計畫の完成を期すにありとの主張が行はれたセワードはアラスカは亜細亞への架橋であるとして米國のアジア進出の企圖を示唆したことはアラスカ買収に對する米國の眞意を傳へて餘りないと思はれる。即ち米國がアラスカを買収したのはアラスカ夫れ自身の開發は第二第三的の意義であり太平洋又は東洋攻略の一環として買収したのである、彌々これは具體的に觀察すると、太平洋海上權の把握、太平洋岸に於ける漁業其他の利權の確保カナダがアラスカ獲得に對する防止策、露國との交友關係の保持と、日本及び支那に對する通商伸張基地としての利用等に要約されるのである、當時米國では不都合なる濫費と云はれた僅かに七百二十萬弗の端た金を以てアラスカを買収したのは全くエビで鯛を釣つた儲けものである。